公募推薦入試

出題傾向

解答時間 60 分、大問 5 題、小問 22 問である。問題構成は以下の通り。

1　読解問題（5 問）
2　読解問題（3 問）
3　読解問題（3 問）
4　読解問題（6 問）
5　読解問題（5 問）

大問1は、「旅行」に関する 350 語程度の説明文を読んで、その内容に答える問題であった。

大問2は、「風力発電基地」に関する 800 語程度の説明文を読んで、その内容に答える問題であった。

大問3は、「自然食品」に関する 500 語程度の論説文を読んで、その内容に答える問題であった。

大問4は、「アリの生態」に関する 300 語程度の論説文を読んで、その内容に答える問題であった。

大問5は、「中央アフリカの消滅しつつある湖」に関する 600 語程度のエッセイを読んで、その内容に答える問題であった。

学習アドバイス

前年度までとの大きな変更点は、まず、大問のすべてが読解問題になったこと、次に、実用的な内容の英文が増加したことが挙げられる。

説明文などの実用的な文章から、エッセイ、論説文まで多様な英文を素材とした読解問題が 5 つ出題されている。また、60 分の試験時間に対して、大問1～5で計 22 問の小問に解答し、2,500 語程度の英文を読むことを考えると、時間に余裕があるとは言えない。文章自体は標準的なものであるが、素早く読みつつも正確に解答するには長文に慣れることが必要である。

では、各大問の特徴を見つつ、対策を考えていこう。

大問1

本文中の詳細情報の把握力を問う出題に対しては、該当箇所を的確に探し出す力が必要である。同時に英文の大意を問う問題もあることから、細部を正確に読み進めながらも英文の要旨を把握する力を養うことが必要である。

大問2・3

「全く当てはまらないものを選べ」という、内容不一致型の出題に対しては、選択肢 1 つ 1 つを丁寧に検討する必要がある。賛成する意見を選ばせる形式の出題に対しては、長い選択肢を丁寧に読む必要がある。同意表現選択問題では、諺(ことわざ)が問われたが、ここでは知識よりもむしろ文脈の把握力が試されている。

大問4・5

大問1と同様に、本文中の詳細情報の把握力を問う出題に対しては、該当箇所を的確に探し出す力が必要である。同意表現を選ばせる出題については、指示語を含む名詞の内容が問われた。ここでは直前の文章の正確な理解が試されている。大問の内容一致問題は、すべてが内容不一致型の出題であり、慎重に本文との対応関係を吟味する必要がある。